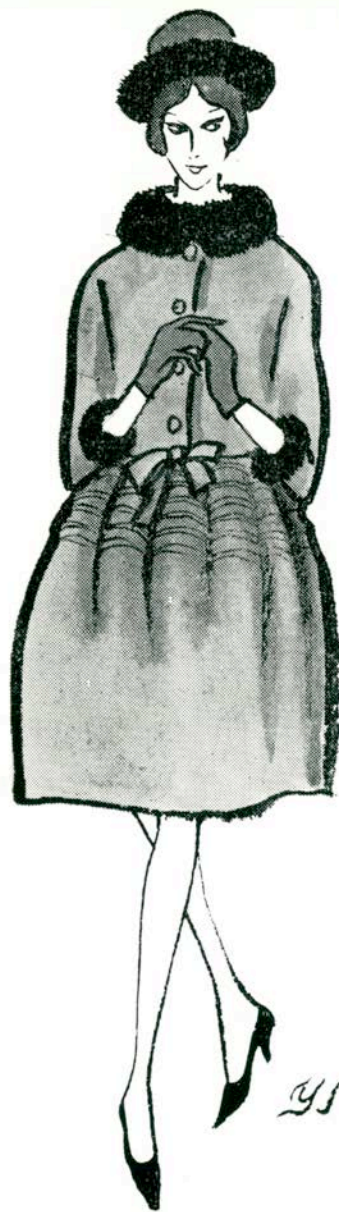


ことしの パリ・モード

福 富 芳 美



パリでは毎年、一月と七月の二回、シーズンに先きがけて、デザイナーたちによって新しいモードが発表されます。

「モード」とは「流行」と訳されますが、この場合は日本語の「はやり」という言葉とは、ちよつと意味がちがいます。それが一般に好まれてはやることを、ファッションというのです。だからモードは、ときどき奇抜すぎて、大衆性がなくふつうの人には着にくいので、ファッションとならないで、姿を消すものも多いわけです。

× × ×

ことしの新しいシルエツト

全般には、一九三〇年ごろ、無声映画時代を再現したといわれた今春のシルエツトを、さらに新しい感覚でデザインさせ、女らしく、やさしいムードをもったものにして、という傾向が見受けられます。

ディオールの表現をかりていえば

「柔らかく波うち、動きのあるライン」―ゆれうごく女らしいシルエツトということになります。

自然な肩の位置、シェーブ（しめる）されたウエスト

裾ひろがりのスカート：ETC。

そしてことは、シルエットを出すのにも、ダーツをあまり使わないで、わずかな切り替えと布地の伸縮とで柔らかく、からだにそわせるといった凝り方で、こうしたテクニクの上でも全体に感じがリバイバル的です。

もちろんリバイバル調といっても、全く新しい感覚でデザインされているわけで、このことはシルエットだけでなく、色彩や布地にも同じことがいえ、クラシッくな調子が、新しい感覚として出ているようです。

またことしは「頭」をつつむのが一つの傾向としてあるようです。同じ布地のストールやフードで頭をつつんだり、フード風の帽子など「頭」をすっぽりつつんだデザインが多いようです。

このほかテクニクの特徴としては、エリ、ソデ口、スソ、エリ巻きのほかトリミングにも毛皮が大へん多く使われていることです。フードの裏にも使われており、豪華さとともに懐古的な感じを出しています。

色彩は黒、茶、グレーなどとオーソドックスなものが流行のようです。

「シャルム62」—ディオール社のマルク・ボアンが発表した1962年冬のシルエットで「小さい頭、ほっそりした肩、ハイバスト、長めの胴、平らなヒップ」が特徴のオーソドックスな、どちらかといえば英国調ともいえるスタイルです。

スカートは、広いフレヤーがつくかひざのあたりでヘムラインがわずかに広がっていて、この春の軽快なシルエットに代って、柔らかくゆったりした女性的ラインがとて落ち着いたふんいきを感じさせます。

やはり、ことしのフアッションも、ディオールのシルエットが中心となっているようですが、いずれにしてもフタをあげてみれば、どのデザイナーの作品も、多少の相異こそあれ、同じような傾向にある—というのが毎度のことです。ほんとうに「流行」の流れは不思議なものだと思わずにはいられません。

(神戸ドレスメーカー女学院院长) —談—

おとこのオシヤレ

出席者

安達 昭三

(フナキヤ男子洋品店)

左近田 駒之助

(三惠洋服店)

仲道 頼市

(柴田音吉洋服店)

橘 英次郎

(千秋堂男子洋品店)

きく人

松井 高男

(神戸新聞学芸部長)

女性よりも男性の方がオシヤレ

松井 きようは、男子専科といえますか、いわゆるオシヤレ通のオシヤレ談義ではなく、紳士服や紳士用品の雑貨のお店の方たちからみられた「男のオシヤレ」についていろいろおききしたいのですが……むろん、「オシヤレ」と一口にいても、いろんな傾向があり、意味があるでしょうが、非常に一般的な意味で男のオシヤレへの関心は最近、たかまってきたといえるのでしょうか。

橘 そうですね。近頃のレジャー・ブームなどでね。

左近田 大体、中年以上のいわゆる年配者の方にオシヤレは多いんじゃないでしょうか。四十五才以上から、いちばん多いのは六十才見当の方がオシヤレですよ。

松井 オシヤレは若い人や女性だけの特権のようにいわれてましたがね。たしかに「年寄り」？どもはオシヤレになりましたね。



(写真松井部長)

左近田 年配の方のオシヤレといえますのはいいですよ。例えば六十越したような方が、真っ赤なジャケツを着たり、タータンチェックのハデなチョッキを着たりされると、とてもマツチしてキレイです。

松井 若い人たちも、いままで主体性がなかったといいますが、自分の身につけるものをより分けるんでなく、なんでも目新しいもの

があれば飛びついていたりというのが、自分で選択することによって身についてきたという感じじゃないでしょうか。

仲道 そうですね、オシヤレはもういまでは「個性」をいかすところまで進歩してますね。やはり洋服にセーターなり、ネクタイを合わせて、また顔の色などによって違った感じを出すといったふうですね。コントラストとかハイモニーとかの使い分けがみなさん上手になりましたよ。

松井 なるほど、オシヤレもいよいよ本格的になってきたということですね。「衣食たつて礼節を知る」というんですが「衣食たつてオシヤレを知る」ってわけですか(笑)

つまり「選択」なんてことは、物心ともに余裕がなければ出来ないことですからね。消費ブーム、所得倍増でゆとりが出来たかどうかは知りませんが、身につけるものも一通りそろって、これからは選

扱っていく段階に入っているのだという、そういう移り目ですか。

橘 とくにワイシャツの流行といえますか、ずいぶん分色がハデになってきたのではありませんか。とにかく昔なら女の方が着るようなシャツを着てらっしゃいますね。かえってワイシャツのオシャレというのが多いようです。

仲道 スポーツ・ウェアや、セーターなどいわゆるスポーティに着るものが、ずいぶんハデになりましたね。「これ全部男物ですか」といわれるほどハデなものを着られるようになりましたよ。かえって一般のビジネス風なものの方が地味な傾向ですね。

松井 そしてそういうハデなものを着ていても不自然でなくなってきましたね。身につけてきたという感じですね。

左近田 たしかにそうです。みなさん色彩ということを手上に研究してらっしゃいますよ。私も三十六年間この仕事をやってきましたが、いちばんハデになってきましたね。それは年配者になるほどよくわかりますね。少しもいや味がありませんわ。どういいますか、ほんとに自分で顔立ちと色めというのをよく知ってらっしゃいますね。

松井 女性もタジタジというところですね。(笑)

左近田 私たちからいわせれば、むしろ男の方がオシャレですよ。替え上着に替チョッキ、替ズボンという人は、いちばんオシャレですよ。

松井 大体「オシャレ」という言葉の語感が、非常にうわついたものに感じられますが「オシャレ」



(写真左から仲道・左近田・橘・安達の各氏)

というのでなく「嗜好」が大へんハッキリしてきたということでしょうね。

仲道 「オシャレとはあき性」なりという定義があるんですよ。

「武士道とは死ぬことと見つけたり」というんじゃありませんかね。

(笑)

松井 「オシャレ道」なんてものもあるかも知れない(笑)

仲道 あきっぽい人ほど、次から次ぎへと買ってくれるというんでしょうね。

左近田 一つ買って三年も着るといふ人はメッタとないし、またそれではダメなんです。オシャレの人だと、ちょっと変ったものが入れば、必ずそれをとり入れてくださいますね。またそういう余裕もありませんでしようがね。

松井 ご夫婦で、あるいはガール・フレンドと選別にこられるというのは増えましたか。

左近田 よくお見えです。その場合は、奥さまが気に入らないといくらご主人が気に入られた品でもダメなんです。

反対に奥さんが「いい」とおっしゃれば一度にきまるんですね。

安達 アベックのお客さまは、必ずといってよいほど、女の方の意見に従われますね。

橘 私どもでもセールスは、家庭へ行って第一番に奥さんを取り入ることが条件になってるんですよ(笑)奥さんと心やすくならないとだめなんです。

仲道 将を射んとすれば馬を射よ」的ですね(笑)

松井 そうなりますとご主人、つまり男性のオシャレの自主性というものも危ないものですね(笑)

奥さんにイニシアチブをとられてしまつてね。

安達 先刻の「オシャレの定義」なんです、あるものを上手にマッティングして着るのが本当のオシャレだという人もありますし、次ぎ次ぎと新しいものを求めるのもオシャレだという考え方もあつて「オシャレ」の見解というのは大へん難かしいといえるんじゃないでしょうか。

左近田 一つのを買ってそれを楽しんでいる人。昨日買ったのに、また次に新しいものを買う人。たくさん買って置いて、順番に着ていく人もありますね。

橋 一部には「ハデ」なものを着るのがオシャレというように思っている人があるんですね。

本当のオシャレは、自分の個性にあったグレーならグレー一色の洋服に、クツ、ネクタイなどをマッティングしていつもキチンと着てらっしゃる—こうした人が本当のオシャレじゃないでしょうか。

左近田 私の大阪のお得意さんなんです、その家に行きますからね。四間の押し入れぶつ通しに洋服が吊ってあるんです。しかもネクタイから帽子まで全部合わせて番号をうつてあるんです。この人は、自分の行き場所にに応じて服を着替えるんですよ。一日少なくとも二回は替えるんですよ。途中二カ所に洋服をあつていてるんだそうです、こういう人は本当のオシャレなんですよ。

松井 さいきんの一つのオシャレの傾向として「ワイシャツ」のオシャレが目立ってきたことは確かですね。ワイシャツのオシャレのポイントといえます。ただ寸法

をはかつてもらえばいいというものでしょうか。

仲道 やはり体格に合ったものということが第一です。若い人で既成品向きの方は、この方がお得ですけれど。首が太い、下がり肩、ハト胸などといわれる方になりますと既成品では合いません。

大体、今日ではワイシャツは、朝起きて、夜寝るまで一日中、身につけているものですから、身体に合わないワイシャツを着て、肩をこらしたり、不愉快な気分になつて仕事の能率にも影響する—というのではつまりませんから、わずかの違いでしたらオーダーになるほうが、いろんな点でお得でしょうね。

ほんとうに身に合ったワイシャツを着られることをおすすめしますね。

松井 ところで洋服屋さんといつてもそのお店によつて、いろいろクセがあると思うんですが、自分の好みに合ったお店を見つけるまでがまず大へんです（笑）
いづれにしてもオシャレの基本はその人の個性にあったものを身につける—ということでしょうね。

若い人は

ステージ衣裳が

お好き

安達 この頃の若い人は、映画やTVに出てくる衣裳を好みますね。橋 例えばズボンね。あれはもう西部劇のものそのままですよ（笑）
安達 極端なものなれば、小林旭のあの映画に着ていたものと同じものはないかとかいうお客さんがふえてきましたよ。自分の身体つ

表紙の言葉

飛松實

藤田嗣治の「女の顔」について

藤田画伯の二度目の帰国は、一九三四年であるから、この「女の顔」は、その前年、帰国の途中南米へ廻った時の作ということになる。

エコール・ド・パリの一員として、パリ画壇の寵児となり世界的な名声と実力とを確立してからすでに数年。技法の円熟を示す面相筆の線描はいよいよ冴えを見せて、繊細、暢達、しかも鋭く勁い。

得意のモチーフを、得意のモチーフで仕上げた画伯独特の清潔で気品高い作品である。

画面下部を相当カットして撮つてあるので、顔面だけの絵に見えるが、原画は、縦長で胸まで描かれている。毛髪部に茶褐色の淡彩を施し、画面をソフトに引き緊めている原画の感じが、どの程度まで印刷で表現できるか、少し気がかりでもある。

同じ作者の一九三七年作の「女と猫」の油彩を、もう一点愛蔵しているが、素人目にはこの水彩の「女の顔」の方が、若々しく美しい。

—歌人・川重秘書課長—

きや個性をいかすことより、ステージのものに飛びつく傾向が強いようです。

左近田 そうそう「トレンチ・コート」の出たときがそうでしたねとにかく若い人には、当り映画で人気のある主人公が着ていた服というのは必ずといっていいほど受けますね。事実、神戸でも映画を観てきてその時の衣装と同じものを作って売ってられる店がありますよ。

ところが年配のお客さまのオシャレは、同じものを人が着てるのは嫌なんです。自分で独占したいんです。変ったもの、他所にないものが喜ばれるんですよ。

松井 つまり「オシャレ」心理の根底にある二つの流れというものがあるんです。皆と同じものというのと、皆と全然違ったものという：

橋 私たちの上着にしても、昔は英国調で、少しカフスが出るのが正式なんです。ところが近頃はTVなどで歌手の袖の長いのをみてますから、袖が長くなってきましたね。そして日本人には無理なぐらい丈の長い上着を着てらっしゃる方が多くなりましたね。もちろん年配の方にはありませんが：ズボンもそうです、シングルが多いでしょう。

最近の若い方はスラッとした細い足になりましたが、まだ住々にしてガニマタの人があります。こういう人が細いズボンをはかれるといけませんね。

左近田 前であまって、後がつかえるんですよ。ぶさいくですね。
松井 あまりにも身に合いすぎる悲劇ですね。

左近田 逆に年配の方のは太くなくてもきてるんですよ。ゆっくりしたものという傾向ですね。そして高級ものになるほどその傾向ですね。

橋 ええ、大体がそういうことになりつつあるようです。

仲道 今年の傾向としてハデな黄赤などの色が流行する反面ですね。十代には「ブラック・アンド・ホワイト」というような色を好む傾向があります。これはほとんど十代に限定されますがね。

安達 しかし、今の若い人の中で見かけておかしいな—と思うんですが、紺のズボンをはいてグリーン、のセーターなどを着てる人があるけど、ああいうのは色彩感覚が全然ないといえるんじゃないかな。
松井 つまり色彩的には、もうひとつ洗練されていないということですか。

安達 マスコミなどで今年はグリーンが流行するということを知って、そういうものを買われるのはいいんだけど、ただそれにズボンが伴わない。中に着るものが伴わないで上ばかりを飾りたてるという傾向にあるんじゃないでしょうか。

ニューヨークなど大都市は一般に地味なんです。そしてアメリカでもカリフォルニアとかテキサスに行けば日本のウインドウにあるような黄、赤などハデな色があるんですよ。

松井 一口にアメリカといっても広いかね。各州、各地方によってカラーが全部違いますからね。それを全部つっ込みで日本にもってくるから、ややこしくなるんですよ(笑)

安達 だから外人が日本にくるとハデだという印象を受けるんですよ。逆に日本人が、アメリカはハデだからといって、赤などハデなものを持ていくと、地味なのでビックリするんだそうですよ。やはり西部など田舎町へいけばうんとハデはハデらしいんだけど：

—ということは、場所に応じて色を着るという観念がアチラは大へん強いんじゃないかな。場所によって服装を替えるということもオシャレの一つですよ。

仲道 場所とかその土地のムードに合わせてね。

橋 東部などは大へん地味らしいですね。ロンドン、イギリスと同じようにダーク・グレイなどのこいものが多いらしいですよ。
安達 そうらしいですね。

最近の男ものの傾向

安達 洋服の場合の流行のポイントはどこですか。

橋 やはり上半身でしょうね。さきんはウエストが、大分上へあがってきましたよ。

安達 それと、ビジネス・ウェアも、遊び着も最近の傾向として何んでもかでもベントスをあけてますね。あれは正式のビジネス・ウェアとしてはあけるべきじゃないんでしょう。

橋 ほんといえますとベントスは、アメリカ調ですね。大体、ビジネスにはいかんのですよ。ベントスも結局、サルまね(笑)でね。みんなあけてるから、あけて欲しいという方が多いんです。

左近田 実際は、あけておくほうがラクはラクなんですがね。

橘 すわたり、ポケットに手を入れるにはいいですね。

セクター・ペンツはアメリカ調で、英国はサイド・ペンツです。

ダブルは最近へりましたね。仕事するにはシングルがいいですよ。松井 チョッキなどもすい分へってきたでしょうね。

左近田 もうほとんど着まぜんねもし着られる場合は、変わりチョッキですね。

安達 三つ揃えなんてのは、みかけませんものね。

一同 そうですよ。

仲道 ネクタイは、合わせにくいですね。大体、洋服の色に合わせて作りますが、既成服にはおむね合うんです。ところが英国などから直輸されるオーダーには合にくいんですね。

左近田 ネクタイの今年の流行色はグリーンですね。

仲道 全体的な流行色というとブラウンじゃないですか。

安達 いや、茶色はもう下火ですよ。

橘 グレーにブルーが主体ですね。安達 もう先端は紺でしょう。

左近田 そうですよ。ご婦人のクツなども今年は紺系統が多いでしょう。

橘 今年のグリーンといっても、オリーブ・グリーンですからね。非常にダークで、ほとんどグレイに近いようなグリーンですね。

安達 バツとみれば黒のような感じですね。

仲道 婦人ものも、同じ傾向でしょうね。黒は着こなすのは難かしいですよ。

紺が一時流行したのは、いつ頃でしたかね、昭和五、六年ですか。

日本人と紺というのは合うんですね。

松井 スタンダードですね。ところで衣装の色で性格がわかるかといえますが……

橘 ええ、色彩で性格は大分わかりますね。

比較的、ヤセ型の人は紺かグレイが多く、性格も割り合いキチンとしてらっしゃいます。

肥満体で、少しルーズなような性格の人は茶色が多いですよ。

左近田 たしかに色はその人の性格を表わしますね、ご婦人でも赤は情熱家、黒はつめたく、グリーン、紺は性質がおだやかという風なことは、ある程度まではいえますね。話がかわりますが、ゴルフ

アが、一番のオシャレという時代は過ぎたようですね。むしろいまはハンターがオシャレのトップ

ということが多いでしよう。

仲道 ・そういうことはいえませぬ。

左近田 とにかく、売る方もこれからは大へんですよ。出来あがつたものを売るんではだめ。勉強しなけりゃね。第一「元町」のよさがなくなりますもの。やはり東京大阪など遠方からわざわざ「元町」へ来ていただくからには特〇のあるものを作り出さなウソですよ。

松井 そうですね、神戸にしか、そして元町にしかないものを作らないとだめでしょうね。

一同 それはいえませぬ。

橘 阪神間の方でも、お勤めが大阪なのに、紳士洋品関係はわざわざこちらにいらして下さいますね。いいものがあるっておっしゃって下さるんですよ。

左近田 お客さまの方で、行きつ

けの店を決めてらっしゃいますね。仲道 オーダーのワイシャツも神戸の方がいいっていわれますよ。横浜もいいらしいですが……

安達 たしかに技術は上です。仲道 外国旅行される方などは、神戸でかためて作って行かれますから。もちろん既成品はたくさんありますよ。だけど身に合ったオーダーという、こちらの方が安くて、仕立がいいとおっしゃってくださる方が多いですよ。

左近田 きょうのように時々、みんなが寄り合って話し合うことは大切ですね、元町いや神戸の発展のためにね。

安達 クツも帽子関係の方もいらっしやればなおよかったでしょうね。

橘 みなさん、それぞれ関連性があるんですからね。

松井 それはいいことですね、こんご大いに交流なさって、神戸ならではの特色を生み出して下さい

(元町寿本舗別室にて)



AUTUMN

FOR MEN'S WEAR

ビジネス

スタイル

写真
は
ネクタイ

(元町バザー)

背 広

(三恵洋服店)

ワイシャツとハンカチ

(千秋堂)

べつ甲のパイプ・ケース

(太田べつ甲店)

ネクタイの

元町バザー

元町一 (3) 一四〇一

紳士服

三恵洋服店

元町四 (4) 七二九〇

男子洋品店

予祿園

元町四 (4) 六九五九

べつ甲の専門店

太田肇甲

元町一 (3) 六一九五



FOR MENS WEAR

レジャアー

スタイル

写真ハ

香港ジャンパー

(フナキヤ)

ネクタイ

(神戸屋)

時計

(美田時計店)

トランジスタラヂオ

(元町電機)

紳士用品

フナキヤ

元町三 (3) 三六八

時計・貴金属・宝石

美田時計店

元町三 ③ 一七九八

男子用品

神戸屋

元町二 ③ 二五八九

電器用品

元町電機

元町六 (4) 三七〇一五



つばや
の 器 陶

ご進物の店 美術・陶器

中 林 寅 一 商 店
神 戸 ・ 三 宮 ・ 生 田 筋
TEL ③ 0238



ワイシャツ専門の店
神戸シャツ
③ 2168 (大丸前)



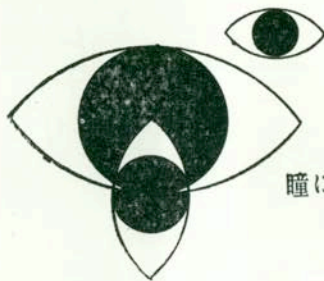
KOBE SUGIYA
ハンカチと下着の店
トアロード ③ 3436

子 薬
フライング
ドンク



三宮センター街・㊤1770
本店・湊川商店街㊤2159
大阪駅専門大店 ㊤0115

淡洲堂



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL ㊤ 8161・8361



秋
心にしみる
灘の生一本

清酒

大黒正宗



長崎堂のカステラ

みんなに贈つて喜ばれる風
味豊かな長崎堂の和菓子
〈元町6丁目〉

本店㊤4402・7515 元町店㊤4130
直売店 神戸大丸 神戸阪急

米 国 で 評 判 の
「カバ ー マ ー ク」

神 戸 で も お 目 見 え

アザ傷あとシミソバカスを隠す美容法



米国オリリー社とていけいして日本皮膚医学会で注目をあつめた「カバーマーク」の美容法を指導するサロンが神戸でも開設されました。もしお困りの方がございましたら御来店下さい。

お 問 合 せ は ……

ジャパンオリリー

神 戸 サ ー ビ ス サ ロ ン

くしや化粧品店内

生田区元町通5丁目山側 ④ 4210

最もリファインされた
メガネ



平井メガネ

生田区加納町4丁目1ノ1
国鉄三宮北側 ③ 1937